

## 第 3 章 研 修・広 報 等

## 1. 職員研修

### (1) 職場研修

ア 所外講師（客員研究員を含む）による講演  
コロナウイルス感染症の感染拡大及び感染予防のため開催なし

イ 所内講師による講演

開催年月日	研修テーマ	講師等
令和3年11月10日	公務員倫理研修「公務員倫理について」	企画総務部 部長 及川 栄一
令和3年11月10日	研究に係る倫理研修 ー研究費の不正使用、研究活動における不正行為の 防止についてー	企画総務部企画情報グループ 主 幹 上野 健一
令和3年11月10日	バイオセーフティ研修会 「バイオセーフティ講習」	感染症部ウイルスグループ 主 幹 駒込 理佳

### (2) 研究職員国内研修事業

コロナウイルス感染症の感染拡大及び感染予防のため研修派遣なし

## 2. 研修生受入

### (1) 大学・企業・団体等

コロナウイルス感染症の感染拡大及び感染予防のため開催なし

### (2) 保健所等

コロナウイルス感染症の感染拡大及び感染予防のため開催なし

## 3. 視察及び見学（講義のみ）※

年月日	所属・団体名等	人数	担当部等
3. 7. 15	国立大学法人 北海道大学獣医学部4年生	41	感染症部
3. 10. 28	国立大学法人 北海道大学医学部4年生	5	企画総務部（企画情報G）、生活科学部、 食品科学部、感染症部、健康危機管理部
3. 11. 24	国立大学法人 北海道大学薬学部2年生	80	企画総務部（企画情報G）、生活科学部、 食品科学部、感染症部

(※) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大及び感染予防のため、施設の視察及び見学は実施せず、講義のみとした。

## 4. 広報活動等

当所の研究成果や公衆衛生に関する情報などを、道民に紹介するため、次の事業に参加、開催した。  
また、ホームページにて各種情報の発信を行った。

### (1) 2021 サイエンスパーク

- ・開催形式 オンライン方式（WEB ページの公開）
- ・開催日時 令和3年7月19日～8月31日（44日間）
- ・主 催 北海道、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
- ・内 容 「色の動きや身近にいる危険な生き物の動きを見てみよう！」というテーマのもと、水性ペンのインクが動く実験の手順、及び私たちの身近にいる危険な生き物の動きについて、WEB ページ上に公開した。

### (2) ホームページの発信

発信内容等の詳細については、各グループ「業務」に記載

- ・北海道感染症情報 (健康危機管理部健康危機管理G)
- ・花粉飛散情報調査 (生活科学部薬品安全G)
- ・北海道（札幌市）における放射能濃度の測定結果 (生活科学部生活衛生G)
- ・刊行物、研究評価等、その他の情報 (関係各G)

## 5. 研究成果

令和3年度に実施した研究課題等の成果は、北海道立衛生研究所報第72集（2022）のほか、学術誌等に掲載し公表している。

### (1) 北海道立衛生研究所報第72集による公表

調査報告2編、ノート5編、資料2編を掲載したほか、学術誌等で公表した発表論文等の標題や概要、学術誌名等を掲載した。（<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/>）

### (2) 学術誌等による公表

発表論文17編、著書等2編、報告書等9編、学会発表22編

## 6. 所内発表会（令和3年度 北海道立衛生研究所調査研究発表会）

日 時：令和3年3月18日

開催方法：ハイブリッド開催（Zoom ウェビナー、北海道立衛生研究所講堂）

○：発表者

1. 【一般試験研究】シラカバ雄花序着花量に基づいたシラカバ花粉飛散量予測に関する研究  
○武内伸治、平島洸基、高橋正幸、小林 智（薬品安全G）、藤本 啓（生活科学部）
2. 【外部資金活用研究】大同生命厚生事業団  
北海道におけるバーカード法を用いた花粉飛散量調査と花粉計数法の確立に関する研究  
○平島洸基、武内伸治（生活科学部薬品安全G）
3. 【外部資金活用研究】令和3年度科学研究費補助金（基盤研究C）  
マイクロプラスチック由来化学物質の核内受容体を介した作用  
○武内伸治（生活科学部薬品安全G）、小島弘幸（北海道医療大学薬学部）
4. 【その他】洞爺湖・壮瞥温泉における主要成分の相関関係による熱水泉源に関する推測  
○高野敬志、市橋大山（生活科学部生活衛生G）、青柳直樹（食品科学部食品保健G）、内野栄治
5. 【その他】ミネラルウォーター中のホルムアルデヒド分析に使用する精製水について  
○佐藤正幸、千葉真弘、高野敬志（生活科学部生活衛生G）
6. 【一般試験研究】甲殻類アレルギー物質検査で偽陽性をもたらすアミ確認法の確立について  
○菅野陽平、青塚圭二（食品科学部食品安全G）、鈴木智宏（企画総務部企画情報G）
7. 【一般試験研究】畜産食品中の殺鼠剤一斉分析法開発に関する研究  
○加賀岳朗、藤井良昭、上田友紀子、青柳直樹（食品科学部食品保健G）、西村一彦（食品科学部）
8. 【その他】都市ギツネの生息状況の変化  
ーエキノコックス症対策における新たな懸念材料ー  
○浦口宏二（感染症部医動物G）
9. 【その他】市街地で実施されたエキノコックス駆虫薬入りベイト散布の一例  
○孝口裕一、浦口宏二（感染症部医動物G）
10. 【一般試験研究】北海道内で発生した薬剤耐性菌と病原性細菌に関する疫学及び検査法に関する研究  
ー北海道内で分離された腸管出血性大腸菌 O26 の薬剤感受性ー  
○小川恵子、竹脇優太郎、三津橋和也（感染症部細菌G）、森本 洋（健康危機管理部）
11. 【外部資金活用研究】AMED  
患者・家畜・食品・環境由来サルモネラの SNVs 解析  
○池田徹也、大野祐太、落合崇浩（感染症部細菌G）

12. 【外部資金活用研究】令和3年度厚労科研（健康安全・危機管理対策総合研究事業）  
公衆浴場におけるレジオネラ症対策に資する検査・消毒方法等の衛生管理手法の開発のための研究  
○森本 洋（健康危機管理部）、小川恵子、三津橋和也（感染症部細菌G）

## 7. 受 賞

### 地方衛生研究所全国協議会関係

令和3年度地方衛生研究所全国協議会会長表彰（令和3年12月20日決定）

感染症部医動物グループ 主幹 伊東 拓也

受賞者は、北海道立衛生研究所に35年間勤務する中で、麻痺性貝毒などの毒性病理、エキノкокクス症を中心とした寄生虫症、ライム病や破傷風などの細菌性感染症、マダニやドクガなどの衛生害虫、動物性食品混入異物などの検査・調査研究に従事し、研修・講演を通してこれらの情報を道民に還元してきた。なかでもドクガ対策では、2005年に衛生研究所が中心となって札幌市ドクガ対策協議会を立ち上げ、2016年からの大発生では、事前対策により被害を食い止めることができ、発生状態が落ち着いている現在でも協議会構成機関によるモニタリングを継続している。現在は、衛生害虫の標本を系統的に収集し、さらに衛生動物学的に高度な知識と手技が必要とされるヌカカ、マダニの形態分類を基礎として、遺伝子による同定技術の開発や遺伝子解析による外来性衛生害虫の系統解析を行っている。また、回帰熱・ライム病ボレリアを主とした媒介マダニの調査、保有する病原体の調査を行っている。これらの情報は、生活衛生・環境衛生分野の行政施策や食品業界等の商業活動に大いに貢献している。今年度からは、新規採用者への衛生動物・寄生虫等の医動物学的な知識・技術の継承に注力している。

今回の受賞は、これらの功績が評価されたものである。

令和3年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部支部長表彰（令和3年6月29日決定）

企画総務部企画情報グループ 主査（情報管理） 鈴木 智宏

受賞者は、平成6年9月に北海道立衛生研究所生活科学科飲料水衛生科に採用され、水道水、河川水、地下水の理化学試験の微量分析項目を担当した。また、河川の水質調査に積極的に取り組み、汚濁源を特定し、ゴルフ場農薬流出事例の検査にも対応した。平成8年にはクリプトスポリジウムの水系感染が国内で問題となり、水道原水等の水試料におけるクリプトスポリジウムの検査にも従事した。平成14年には感染症センター生物科学部遺伝子工学科に異動し、ウィルソン病の遺伝子診断、遺伝子組換え食品や食品中のアレルギー物質の検査に従事し、エキノкокクス症に係る調査研究にも携わった。この間、平成14年のクリプトスポリジウム症集団発生事例や平成19年に発覚した牛肉偽装表示事件では、これまで種々の分野で培ってきた検査技術や経験を活かして検査に貢献した。平成23年からは主査（遺伝子・アレルギー）として行政検査、調査研究の傍ら後継者の育成にも注力した。

今回の受賞は、これらの功績が評価されたものである。